

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和3年度病虫害発生予察注意報第2号について

イチゴのハダニ類については、9月は平年並の発生量でしたが、10月には急増しており、寄生株率は過去10年で、最も高くなっています。ビニル被覆後は、増加傾向となりますので、発生ほ場では防除対策を徹底し、発生密度の低下に努めましょう。

注意報第2号

- 1 対象作物名：イチゴ
- 2 病虫害名：ハダニ類
- 3 発生量（現況）：多
- 4 注意報の根拠

- (1) 10月5半旬調査の結果、寄生株率は9.8%、発生ほ場率は38.5%で、平年・前年より高く、寄生株率においては、過去10年でもっとも高くなっている。
  - ・10月5半旬の寄生株率 **9.8%** (平年 2.7%、前年 9.5%)
  - ・10月5半旬の発生ほ場率 **38.5%** (平年 25.6%、前年 23.1%)

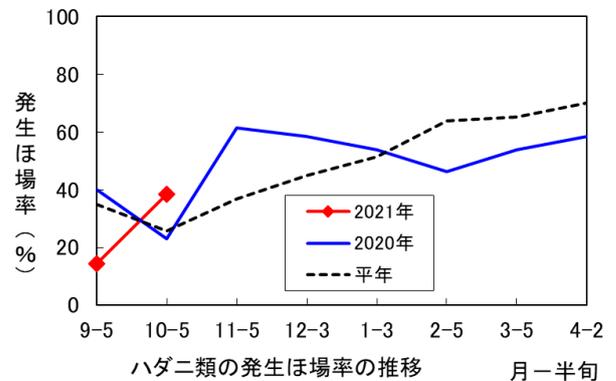
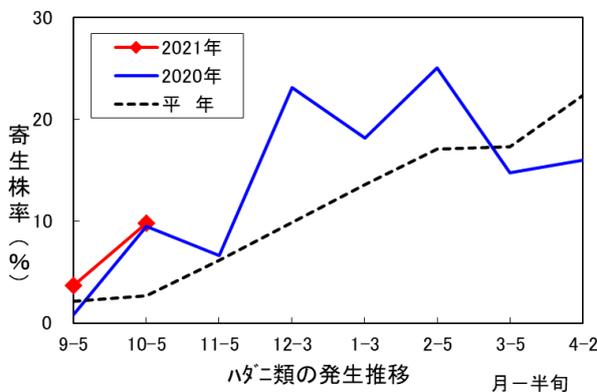


表1 イチゴのハダニ類の10月5半旬における発生状況(過去10年)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	平年
寄生株率(%)	2.3	2.4	5.3	2.1	0.7	0.3	0	2.9	9.5	9.8	2.7
発生ほ場率(%)	43.5	13.0	66.7	28.6	14.3	7.1	0	35.7	23.1	38.5	25.6

- (2) 10月21日福岡管区気象台発表の1か月予報によれば、降水量と日照時間はほぼ平年並、気温は平年並か高いと予想されており、発生に好適な条件である。

## 5 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (3) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性に乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬剤が十分かかるよう、丁寧な散布を心がける。
- (4) 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連続散布の連用は避け、気門封鎖剤も含めて、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 気門封鎖剤は、卵に効果が低い剤もあり、残効も短いので、約7日間隔で複数回散布が望ましい。
- (6) ミツバチに影響が少ない薬剤を使用する。
- (7) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響が大きい薬剤は使用しない。



ナミハダニの雌成虫および卵



葉裏に多数寄生したナミハダニ

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○Twitter (ツイッター) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: [https://twitter.com/PPDPO\\_Fukuoka](https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka) または右QRコード②

